

1 何時何分ですか。

(1)



こたえ

3時 25分

(2)



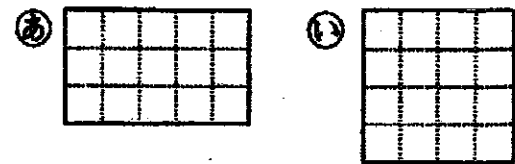
こたえ

9時 56分

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ C1 □ C2 ■ C3 ■■				0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%			
1	(1)	A	C1	C2	平成25年度	92										17		
		正答	5:17		左記以外の誤答・無答	平成27年度	92										17	
	(2)	A	C1	C2	平成25年度	80										5	2	13
		正答	10:56	9:55	左記以外の誤答・無答	平成27年度	75										8	3
				平成29年度	74										8	3	14	

1 時刻を正確に読むことができるかをみる問題である。正答率は(1)が92%、(2)が74%であった。(2)は前回より1ポイント下がっている。(2)は、(1)と比較すると18ポイントと、その差は大きい。誤答をみると、10時56分が8%であった。このことから、短針を正しい数値ではなく、短針が近い方の数値を読み取ってしまう傾向があると考えられる。実際の時計を操作する活動を通して、長針と短針の示す時刻を正確に読み取らせるようにしていきたい。また、学校生活の中で「給食のあいさつの時刻」や「学習を終わりにする時刻」など日常的に時計を読ませ、時刻を意識させることを心がけたり、「もうすぐ〇時だからそれよりは前」といった(2)のような時刻の表現を多様に理解したりする活動を積極的にやりたい。

2 ひろさをくらべました。あといではどちらがひろいでしょう。



こたえ

い

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ C □		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
2	A	C	平成25年度	88										12
	正答	誤答・無答	平成27年度	92										8
			平成29年度	91										9

2 任意単位を用いた大きさの比較をする問題である。正答率は91%と前回より1ポイント下がった。広さを比べる際に、直接重ねて比べることができない場合は、身の回りにあるものの大きさを単位として数値化することで比べることができることの良さを実感させたい。同じ大きさの色板を並べたり、方眼を塗りつぶしたりといった活動を通して、広さを比べられることを意識させていくことが大切である。

3 びんに水が入っています。水がいちばんおおいのはどれですか。



こたえ

あ

3台それぞれに〇をしても正答

4 車がならんでいます。

(1) まえから3だいに〇をつけましょう。



(2) うしろから2だいに〇をつけましょう。



問題	評価基準及び割合 (%) A ■ C1 □ C2 ■ C3 ■■				0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%		
3	A	C1	C2	C3	平成25年度	94										4	
	正答	㉖	㉗	左記以外の誤答・無答	平成27年度	94										4	
					平成29年度	95										3	
4	(1)	A	C1	C2	平成25年度	97										3	
		正答	ゆうびんしゃのみに〇		誤答・無答	平成27年度	98										2
	(2)	A	C1	C2	平成25年度	65										32	4
		正答	タクシー、トラック両方に〇		誤答・無答	平成27年度	94										5
				※平成29年度	86										5		

【年度の横の記号(※)は、問題に変更を加えたものです。】

3 容器の形や水面の高さに着目して、水のかさを比べることができるかをみる問題である。正答率は95%で、前回より1ポイント上がった。誤答例の㉖を選んだ児童は、水面の高さにのみ着目し、容器の太さを考慮しなかったためと考えられる。容器の太さや底面の大きさが異なると、水面の高さが同じでもかさが異なることを、体験を通してしっかりと理解させることが大切である。また、㉗が正答である理由を自分の言葉で表現する活動を取り入れることも必要である。「水面の高さは同じでも、容器の太さが違うから太い方が多い。」のような考えの根拠を明確にして自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりすることで、考える力の素地を養うことができる。考える。

4 数が順序や集合、位置を表すことを理解できるかをみる問題である。正答率は(1)が65%、(2)が86%であった。(1)では、「郵便車にのみ〇」の誤答が32%あった。その他の誤答及び無答が5%であることから、「3だいに」と「3だいに」の表現を取り違えている、又は言葉が表す違いを十分理解していないことが原因と考えられる。(2)も含めて、集合数や順序数を表す言葉の違いを的確に理解していない児童が多いことが考えられる。

算数の学習では、教師が意図的に「前から〇人」や「前から〇番目」と発問し、順序数と集合数を区別して指導する。しかし、日常生活の中では「目」を言わなくても意味が通じてしまう場合があり、混同して理解してしまっていると思われる。この日本語としての違いや日常生活の場面を教師が十分に理解し、指導することが大切である。意図的に集合数か順序数かを簡単に判断できない場面を設定し、「3」という数は「3台」なのか「3台目」なのかを考えさせるなど、児童に実感を持った指導が必要である。

また、児童同士が問題を出し合い、ゲームやクイズを解くような活動をして、順序数と集合数の違いを体感できるような授業の工夫も効果的である。

- ⑤ えほんの たてと よこの ながさを くらべます。
 たくしく くらべられる ほうほうは どれでしょう。
 () の中に ○ を つけましよう。

④ わたしは、かるたを みぎの えのように ならべて、 いくつぶんかで くらべました。
 ()

⑤ ぼくは、テープでしらべました。
 はじめに、 たての ながさのところ に しるしを つけました。
 つぎに、 そのテープを よこに あでて くらべま した。
 (○)

⑥ ぼくは、 いろいろなもの を ならべて、 くらべました。
 ()

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ C1 □ C2 ■■ C3 ■■■			0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
5	A	C1	C2	平成25年度	74 18 9									
	正答	④のみ または ⑥と⑤	左記以外の 誤答・無答	平成27年度	70 21 9									
				平成29年度	71 19 9									

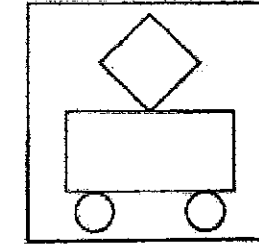
- ⑤ 正しく長さを比べることができるかどうかをみる問題である。正答率は71%で、前回と比較すると正答率は1ポイント上がり、⑥を含めた誤答は2ポイント下がった。しかし、⑥を含む誤答は19%と高い。問題の④で言えば、「絵本の縦はかるた5枚分、絵本の横はかるた2枚分」と縦横の区別なしに任意単位を用いる児童がいる。この単元では、任意単位としたものの長さを明確に伝えることで算数における説明する力の素地を養うことができる。指導の際に「消しゴム(任意単位)の縦を使うと○個分」という表現を積極的に用いるなどして、どの部分の長さを使ったのかをより正確に表現できるようにする授業展開を望みたい。

「かるたの長い部分を使うと絵本の横は2枚分」

「かるたの長い部分を使うと絵本の縦は○枚分」

というように「同じもの」を使って比べることを指導の中で確実に押さえ、児童が互いに伝え合う活動を重視したい。

- ⑥ つみきや ボールが ありました。 かたちを うつしとって みぎの ような でんしゃの えを かきました。 どれを つかったでしょう。
 ばんごうを 3つ かきましよう。



① ② ③ ④
 こたえ ① ② ④

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ C1 □ C2 ■■			0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
6	A	C1	C2	平成25年度	78 13 9									
	完答	③を含む	左記以外の 誤答・無答	平成27年度	81 12 7									
				平成29年度	82 11 7									

- ⑥ 目的に合わせて、平面の形を分解して捉えることができるかをみる問題である。完答は82%であった。しかし、球を選ぶ誤答をする児童が11%と比較的高い数値である。体験が理解に大きく影響される単元である。球が写し取りにくいという活動を取り入れるなど、正答だけでなく誤答の例の経験もさせたい。また、「まるい」といった端的な言葉だけでなく「ころがる」「おいたときにとまる」など機能的な側面から立体の特徴を捉えさせることが大切である。